

# ビッグデータ新興国小型株ファンド (1年決算型)

追加型投信／海外／株式

## 交付運用報告書

第4期（決算日2023年10月20日）

作成対象期間（2022年10月21日～2023年10月20日）

第4期末（2023年10月20日）	
基準価額	19,003円
純資産総額	5,991百万円
第4期	
騰落率	22.5%
分配金（税込み）合計	0円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「ビッグデータ新興国小型株ファンド（1年決算型）」は、2023年10月20日に第4期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、「アクサIMエマージング小型株式ファンド（適格機関投資家専用）」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<644854>

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

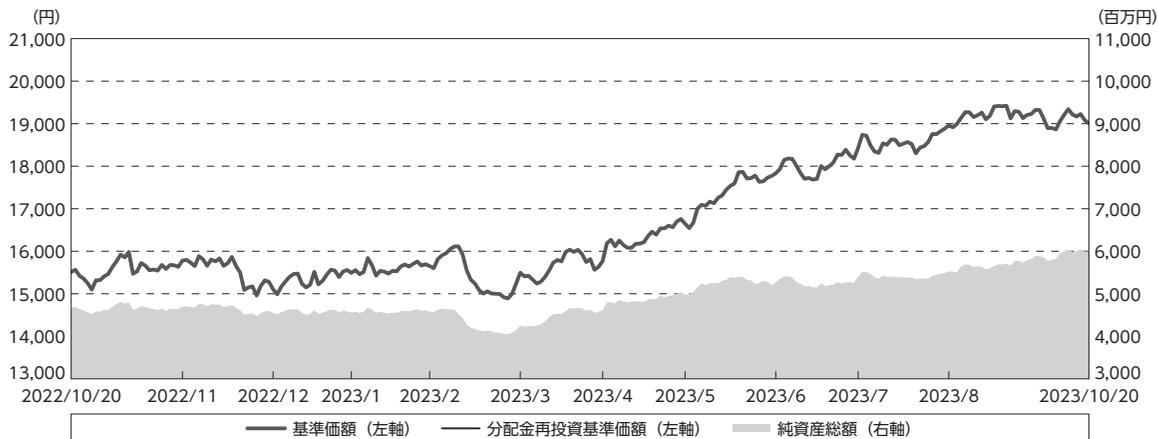
コールセンター 電話番号：0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2022年10月21日～2023年10月20日)



期首：15,510円

期末：19,003円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：22.5%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首（2022年10月20日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、世界の金融商品取引所に上場されている新興国の小型株式（預託証券を含みます。以下同じ。）を主要投資対象とする投資信託証券の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

## &lt;値上がり要因&gt;

- ・米国経済のソフトランディング（安定成長への移行）やハト派（金融緩和的な政策を支持）的な政策転換への期待により、リスク選好度が高まり、投資家の資金が新興国株式市場へ回帰したこと。
- ・米国の2023年1～3月（第1四半期）の実質国内総生産（GDP）成長率が上方修正されたことや、米国株式上昇の要因となったAI（人工知能）ブームを受けて、米国経済が景気後退を回避するのではないかという期待が高まったこと。

- ・中国でさらなる景気刺激策が約束されたことや、上場企業の収益改善への期待の高まりから投資家の買い意欲が強まったこと。

#### <値下がり要因>

- ・中国における予想外の利下げ、株価対策を目的とした株式取引に関する規制強化、消費者信頼感の低迷、大手不動産開発会社の破産申請などを受けて、同国経済に対する懸念が高まったこと。
- ・アメリカドル高が世界的なインフレに拍車をかけ、多くの新興国株式市場で、アメリカドル高と金利上昇によるアメリカドル建て債務の返済負担の拡大懸念が高まったこと。
- ・世界的な不況への懸念から、コモディティ価格が全般的に下落したため、コモディティへの依存度が高い資源国の市場が影響を受けたこと。

### 1万口当たりの費用明細

(2022年10月21日～2023年10月20日)

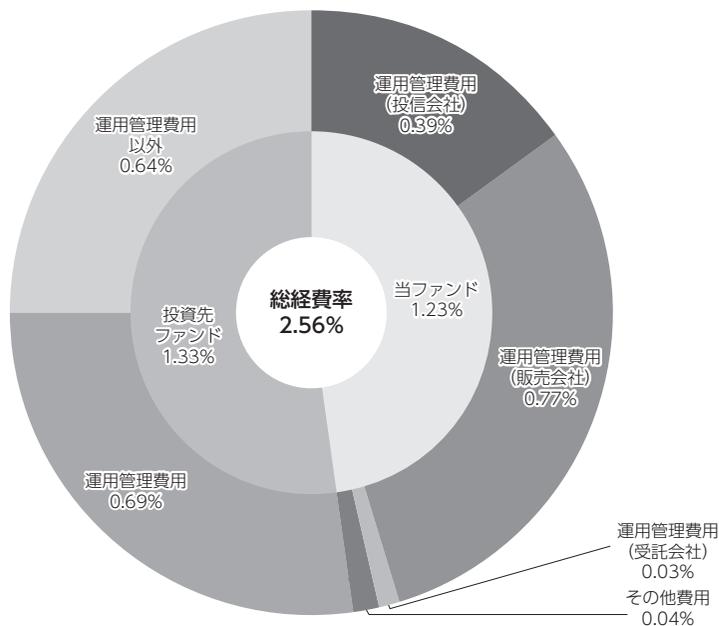
項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 197	% 1.182	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	( 64)	(0.385)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(128)	(0.770)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（受託会社）	( 5)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	6	0.038	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監査費用）	( 1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷費用等）	( 6)	(0.034)	印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用など
（その他）	( 0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	203	1.220	
期中の平均基準価額は、16,642円です。			

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。
- (注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

## (参考情報)

## ○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.56%です。



(単位: %)

<b>総経費率(①+②+③)</b>	<b>2.56</b>
①当ファンドの費用の比率	1.23
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.69
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.64

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認ください。期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

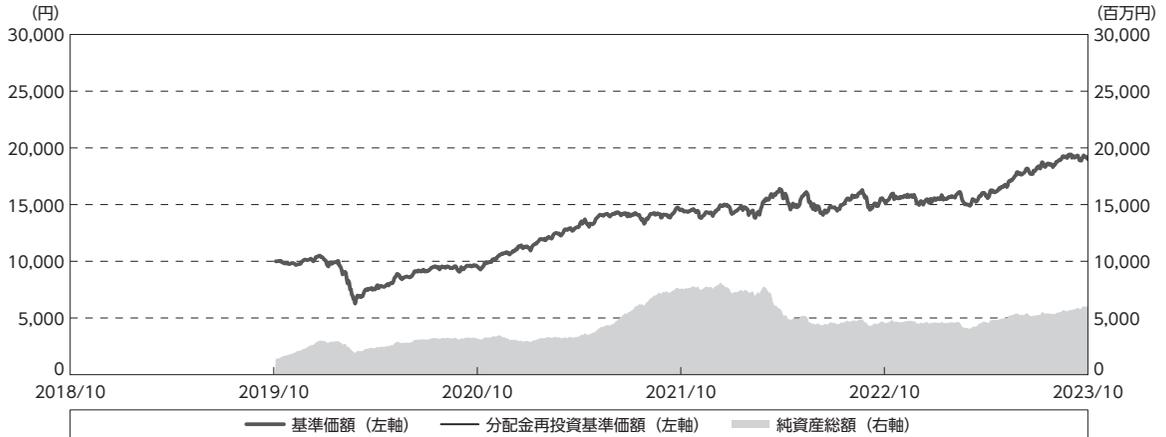
(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

（2018年10月22日～2023年10月20日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 当ファンドの設定日は2019年10月31日です。

	2019年10月31日 設定日	2020年10月20日 決算日	2021年10月20日 決算日	2022年10月20日 決算日	2023年10月20日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,626	14,750	15,510	19,003
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 3.7	53.2	5.2	22.5
純資産総額 (百万円)	1,410	3,267	7,660	4,667	5,991

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。  
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2020年10月20日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

**投資環境**

（2022年10月21日～2023年10月20日）

**（株式市況）**

期間の初めは、新興国株式市場は、米国連邦準備制度理事会（F R B）がさらなるタカ派（金融引き締め的な政策を支持）的姿勢を示したことによるアメリカドル高の影響や、世界経済見通しへの懸念が高まったことおよび地域独自で抱えている問題などが影響して下落しました。アメリカドル高は世界的なインフレに拍車をかけ、多くの新興国株式市場ではアメリカドル高と金利上昇によるアメリカドル建て債務の返済負担の拡大懸念が高まりました。その後は、F R Bが景気後退に直面して金融政策の引き締めペースを緩和するとの期待や中国政府によるコロナ規制の大幅緩和に伴う経済再開への期待から上昇したものの、2022年の年末にかけては、新型コロナウイルス（COVID-19）の新規感染者数急増による世界的な景気後退懸念が高まり、新興国株式市場は下落しました。2023年に入ると、世界的なインフレの緩和、F R Bの利上げペース緩和への期待、中国経済の見直し改善などが支援材料となり、新興国株式市場は年初から上昇しました。また、米国経済のソフトランディングやハト派的な政策転換への期待により、リスク選好度が高まり、投資家の資金が新興国株式市場へ回帰したことも好材料となりました。3月以降は3つの金融機関の破綻（シリコンバレー・バンク、シグネチャー・バンク、クレディ・スイス）により銀行セクターが急落し、市場に激震が走りましたが、当局の素早い介入により投資家は危機を払いのけることができ、ほとんどの銘柄が損失を取り戻してプラス圏を回復しました。第2四半期は、新興国株式市場は総じて上昇しました。ブラジル株は、同国の非常にタカ派的な中央銀行が極めて高い政策金利を緩和する方向に傾いたことを受けて、海外投資家から買いが入りました。インド株にも買いが集中して、同国は時価総額で世界第4位の株式市場となりました。しかし期間末にかけては、アメリカドル高、債券利回りの急上昇、中国経済への懸念の高まりなどが強く意識され軟調な展開となりました。

**（国内短期金利市況）**

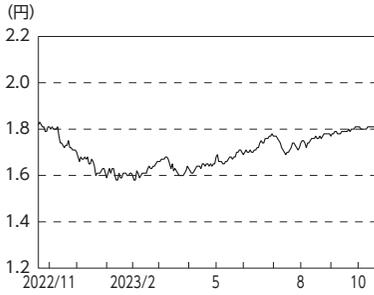
無担保コール翌日物金利は、期間の初めの $-0.05\%$ 近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、 $-0.01\%$ 近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（T B）3ヵ月物金利は、期間の初めの $-0.16\%$ 近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、 $-0.22\%$ 近辺で期間末を迎えました。

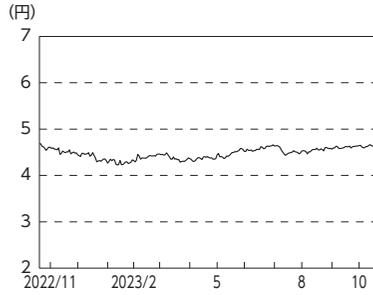
（為替市況）

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。

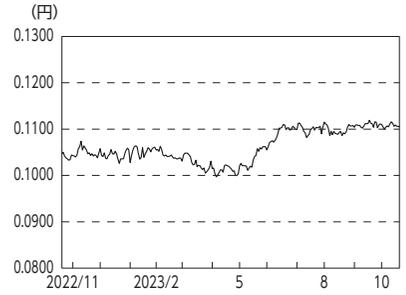
円／インドルピーの推移



円／新台幣ドルの推移



円／韓国ウォンの推移



円／香港ドルの推移



**当ファンドのポートフォリオ**

（2022年10月21日～2023年10月20日）

**（当ファンド）**

当ファンドは、収益性を追求するため、「アクサIMエマージング小型株式ファンド（適格機関投資家専用）」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

**（アクサIMエマージング小型株式ファンド（適格機関投資家専用））**

ポートフォリオでは、純資産利回りや株式益利回りが高めのバリュー（割安）株を多く保有していたことがファンドのリターンに大きく貢献しました。また、パフォーマンスが好調であったテクノロジーセクターに多く投資していたことや、金融政策正常化への期待の高まりなどから大幅に上昇したトルコ株を多く保有していたこともプラスに寄与しました。さらに、電気自動車の需要増加の恩恵を受けた韓国最大級の商社の保有がプラスに寄与しました。一方、中国不動産市場が低迷するなか、同国の不動産関連銘柄を保有していたことなどはマイナスに影響しました。

**（マネー・アカウント・マザーファンド）**

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

**当ファンドのベンチマークとの差異**

（2022年10月21日～2023年10月20日）

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

**分配金**

（2022年10月21日～2023年10月20日）

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

**○分配原資の内訳**

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第4期
	2022年10月21日 ～2023年10月20日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	9,002

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

**今後の運用方針****（当ファンド）**

引き続き、「アクサIMエマージング小型株式ファンド（適格機関投資家専用）」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

**（アクサIMエマージング小型株式ファンド（適格機関投資家専用））**

幅広いユニバースから良好な企業ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）を持つ割安な銘柄を探し、国、業種、企業固有のリスクを分散しながら安定したリターンを得ることをめざします。

世界新興国各国の小型株の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、中長期的な信託財産の成長をめざします。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル（定量分析）などにより、個別企業の財務諸表および企業収益の変化などの要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

**（マネー・アカウント・マザーファンド）**

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は原則として、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

## お知らせ

2022年10月21日から2023年10月20日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

当ファンドについて、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、投資対象ファンドにて行なうデリバティブ取引の利用目的を明確化すべく、2023年7月21日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（付表）

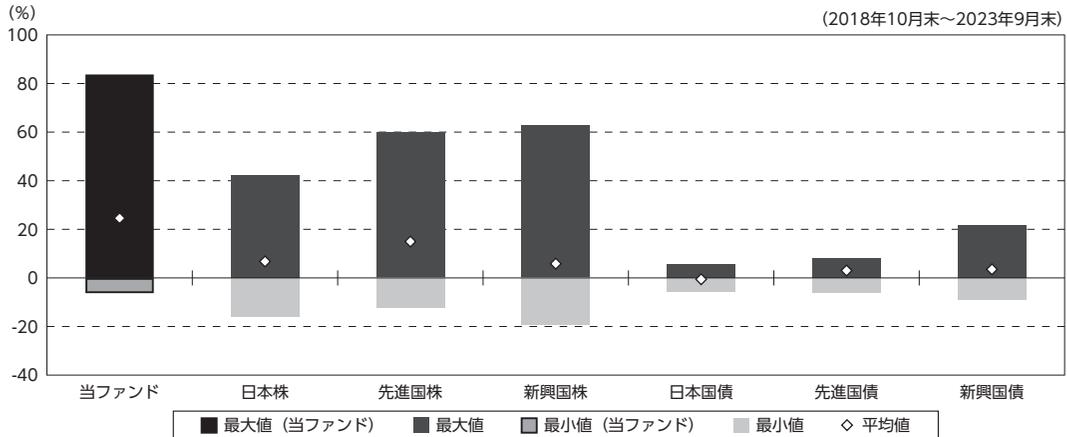
当ファンドについて、その商品性、基準価額水準および純資産規模等を勘案し、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、信託期間を無期限とするよう、2023年7月21日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。（第4条、第47条）

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	2019年10月31日から原則無期限です。
運用方針	主として、世界の金融商品取引所に上場されている新興国の小型株式（預託証券を含みます。）を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「アクサIMエマージング小型株式ファンド（適格機関投資家専用）」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、世界の金融商品取引所に上場されている新興国の小型株式（預託証券を含みます。）を主要投資対象とする「アクサIMエマージング小型株式ファンド（適格機関投資家専用）」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	83.7	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	△6.3	△16.0	△12.4	△19.4	△5.5	△6.1	△8.8
平均値	24.6	6.8	15.0	5.9	△0.6	3.0	3.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年10月から2023年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2020年10月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2023年10月20日現在)

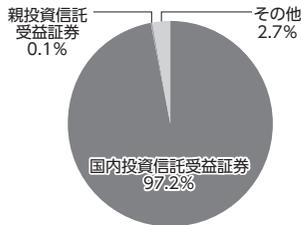
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第4期末
	%
アクサIMエマージング小型株式ファンド（適格機関投資家専用）	97.2
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

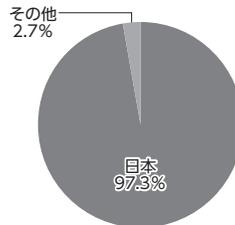
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

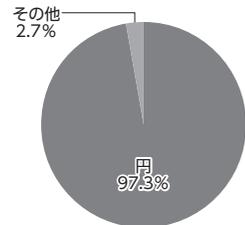
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

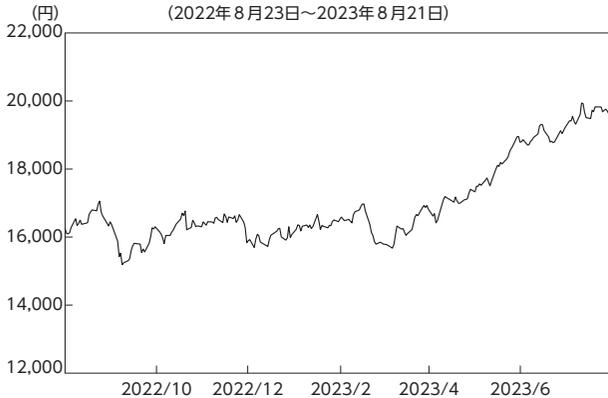
項目	第4期末
	2023年10月20日
純資産総額	5,991,568,765円
受益権総口数	3,152,986,865口
1万口当たり基準価額	19,003円

(注) 期中における追加設定元本額は3,050,537,925円、同解約元本額は2,907,190,434円です。

組入上位ファンドの概要

アクサIMエマージング小型株式ファンド（適格機関投資家専用）

【基準価額の推移】



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2022年8月23日～2023年8月21日)

項 目	第4期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 信託報酬 (投資信託会社) (販売委託会社)	120 (112) ( 2)	0.707 (0.658) (0.011)
(b) 売買委託手数料 (株)	26 ( 26)	0.153 (0.153)
(c) 有価証券取引税 (株)	8 ( 8)	0.050 (0.050)
(d) その他費用 (監査費用) (その他)	112 ( 2) (110)	0.659 (0.013) (0.645)
合 計	267	1.570

期中の平均基準価額は、16,990円です。

- (注1) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。
- (注2) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。
- (注3) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注4) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

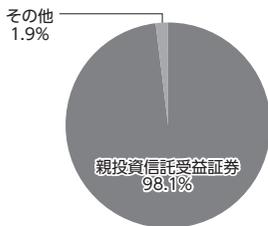
【組入上位ファンド】

(2023年8月21日現在)

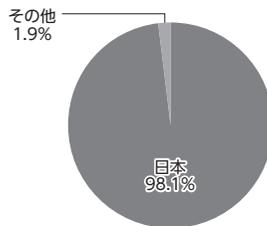
銘 柄 名	第4期末
	%
アクサ IMエマージング小型株式マザーファンド	98.1
その他	1.9
組入銘柄数	1銘柄

- (注1) 比率は純資産総額に対する割合です。
- (注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。
- (注3) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

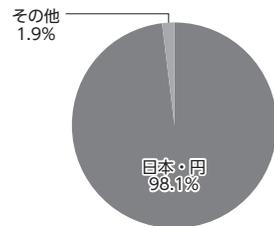
【資産別配分】



【国別配分】



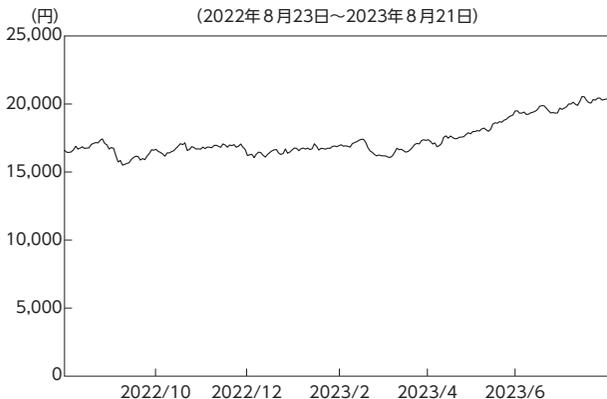
【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

＜ご参考＞ アクサIMエマージング小型株式マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年8月23日～2023年8月21日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (株)	27 ( 27)	0.154 (0.154)
(b) 有価証券取引税 (株)	9 ( 9)	0.050 (0.050)
(c) その他費用 (その他)	113 (113)	0.649 (0.649)
合計	149	0.854

期中の平均基準価額は、17,423円です。

(注1) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

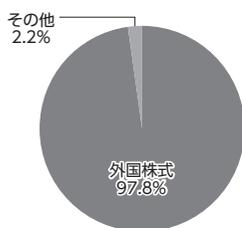
(注3) 「比率」欄は、「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（17,423円）で除して100を乗じたものです。

【組入上位10銘柄】

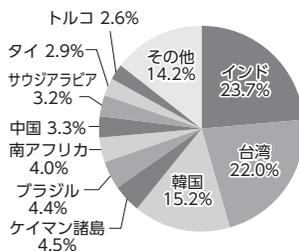
(2023年8月21日現在)

	銘柄名	通貨	比率
			%
1	ASIA VITAL COMPONENTS	台湾・ドル	1.5
2	ALSEA SAB DE CV	メキシコ・ペソ	1.2
3	EXIDE INDUSTRIES LTD	インド・ルピー	1.1
4	GLENMARK PHARMACEUTICALS LTD	インド・ルピー	1.1
5	ZHEJIANG EXPRESSWAY CO-H	香港・ドル	0.9
6	KRUK SA	ポーランド・ズロチ	0.9
7	LS CORP	韓国・ウォン	0.9
8	LIC HOUSING FINANCE LTD	インド・ルピー	0.9
9	KING YUAN ELECTRONICS CO LTD	台湾・ドル	0.9
10	CHINA COMMUNICATIONS SERVI-H	香港・ドル	0.8
	組入銘柄数	368銘柄	

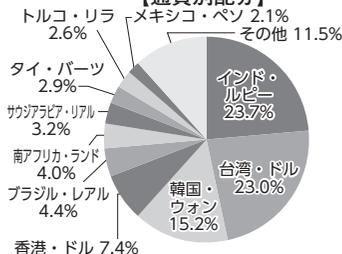
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

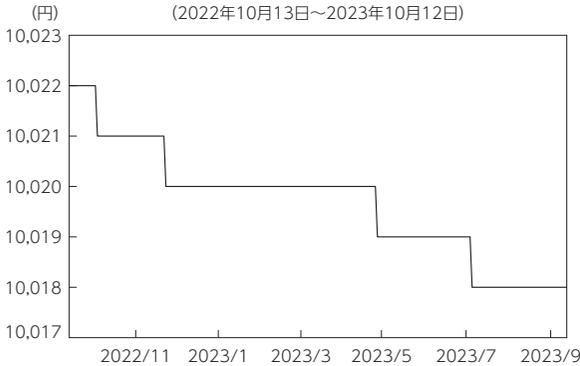
(注2) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

## マネー・アカウント・マザーファンド

## 【基準価額の推移】

(2022年10月13日～2023年10月12日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2022年10月13日～2023年10月12日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) そ の 他 費 用 ( そ の 他 )	円 0 (0)	% 0.000 (0.000)
合 計	0	0.000

期中の平均基準価額は、10,019円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 組入資産の内容

(2023年10月12日現在)

2023年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。